



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

**現代日米ビジョンの構築：
進化と繁栄を共有するためのマンズフィールド財団タスクフォース**

「日米ビジョン」の発表・公開セミナー in 仙台

2012年春、日本からワシントンDCへの桜寄贈100周年を迎えました。日米関係にとってこの重要な時点を記念し、モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団は、ワシントン日本商工会とニューヨーク日本商工会議所から支援を受け、「マンズフィールド財団タスクフォース：進化と繁栄を共有するための現代日米ビジョンの構築」を結成いたしました。

2012年秋、民間セクター、学術部門、政府から9人の日本専門家から成るタスクフォースは、今後の日米二国間関係についての構想(ビジョン)を纏め、発表いたします。そしてトーマス・シーファー前米国駐日大使を含むタスクフォースの一行は、日本の6地方都市を巡り、各地の主要なステイクホルダーと共に、タスクフォースが掲げる構想(ビジョン)について討論いたします。シンポジウムにおいては、人材交流への投資拡大、共通の経済課題、地域の成長と安定のエンジンとしての貿易促進における日米協力、地球規模課題に対する二国間アプローチについて等、様々な日米協力についてのテーマを取り上げます。アメリカの日本専門家のオピニオンを聞く貴重なチャンスですので、ご関心のある方は是非ご参加下さい。

日時:2012年 11月 30日(金)14:00-16:00

**会場:東北大学片平キャンパス
生命科学研究所1階講義室
(仙台市青葉区片平二丁目1-1)**

http://www.tohoku.ac.jp/japanese/img/profile/about/10/about1002/map_katahira_2012.pdf

定員 100名(申込み先着順)

参加費無料、同時通訳付

主催:モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団

共催:東北大学

協賛:ワシントン日本商工会、ニューヨーク日本商工会議所

**※参加される方は 11月22日(木)までに東北大学国際交流課<kokusai-r@bureau.tohoku.ac.jp>まで、事前に
①名前 ②所属 ③連絡先を明記の上ご登録ください。**

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 14:00-14:05 | 開会挨拶 植木俊哉 東北大学理事 |
| 14:05-14:15 | プロジェクトの概要の説明
ゴードン・L・フレイク マンズフィールド財団所長、タスクフォース議長 |
| 14:15-15:00 | タスクフォースからの提言 <ul style="list-style-type: none">デービッド・ボーリング マンズフィールド財団
「日本:3つの考え」ロバート・ペッカネン ワシントン大学
「人材交流と日米関係」ミレヤ・ソーリス プルッキングス研究所、アメリカン大学
「変わる日本:日米経済協力拡大に向けて」 |
| 15:00-15:10 | コメント 植木俊哉 東北大学理事 |
| 15:10-15:25 | コメント、感想
J・トーマス・シーファー マンズフィールド財団理事会役員
タスクフォース上級諮問委員 |
| 15:25-15:55 | 質疑応答 |
| 15:55-16:00 | 閉会挨拶 ゴードン・L・フレイク マンズフィールド財団所長、タスクフォース議長 |

タスクフォースメンバー



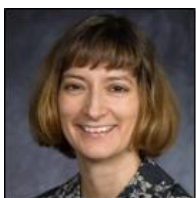
デービット・ボーリング モーリーン・アンド・
マイク・マンスフィールド財団副所長

モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団副所長を務め、米国議会が創設した中堅の米国連邦政府職員向けの日米政府間交流事業であるマンスフィールドフェローシップ・プログラムのディレクター。米国司法省反トラスト部で弁護士を務め、マンスフィールドフェローの第5期生(1999～2001年)となる。財団では、米国の若手日本専門家を育成することを目的として2009年に創設された「日米次世代を担うネットワーク」プログラムも管理・統括している。



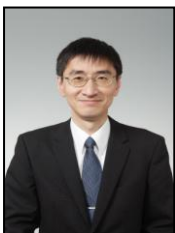
ロバート・ベッカネン ワシントン大学准教授
日本研究プログラム代表

ワシントン大学ヘンリー・M・ジャクソン国際研究大学院准教授及び日本研究プログラム代表。現在、筑波大学准教授。近年の研究対象は市民社会、日本の町内会、日本の政党政治と立法機関、政党比較と立法機関など多岐にわたる。ハーバード大学で政治学の博士号を取得。



ミレヤ・ソーリス ブルッキングス研究所北
東アジア政策研究センター シニアフェ
ロー/日本研究チェア、アメリカン大学准
教授

研究対象は国際比較政治経済、日本政治と外交政策、北アメリカ及び東アジアの地域統合。日米関係について数多くの著作を発表し、高く評価されている。日本ビジネス研究会ヤングスカラー賞受賞、フルブライト財団、フォード財団のスカラシップを獲得。ハーバード大学にて政治学の博士号取得。



コメンテーター

植木俊哉 東北大学理事(総務・国際展開
・学術基盤担当)、東北大学大学院法学研
究科教授

東京大学法学部を卒業後、1986年より東北大学にて法学部教授、法学研究科長、法学部長を務め、2012年4月より東北大学理事(総務・国際展開・学術基盤担当)。ケンブリッジ大学国際法研究所客員フェロー(1988年-1990年)、ハーバード燕京研究所客員研究員(1996年-1997年)。専門は国際組織に関する国際法理論研究。第27回安達峰一郎記念賞受賞(1994年2月)。



議長

L・ゴードン・フレイク モーリーン・アンド・マ
イク・マンスフィールド財団 所長

1999年2月、モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団所長就任。前職として、韓国経済研究所研究調査部長、大西洋評議会紛争解決プログラム上席研究員/アソシエイトディレクター。米国の北朝鮮人権委員会および韓国経済研究所諮問委員会のメンバーであると同時に、ロンドンにある国際戦略研究所(IISS)のメンバーであり、アジア太平洋安全保障協力会議米国委員会(USCSCAP)の委員を務める。



上級諮問委員

J・トーマス・シーファー 前米国駐日大使

2005年から2009年まで駐日米国大使を務める。東京での任期中、1960年の日米安全保障条約締結から続く日米同盟の再編交渉に携わった。2009年には、日米同盟の強化促進への功績を称えられ、米国国防総省から文民に与えられる最高の栄誉である「パブリック・サービス・アワード」を受賞した。外交でのキャリアは2001年、駐豪米国大使就任に遡る。外交入りまでは、投資家としてテキサス・レンジャーズ・ベースボールクラブの買収に関わり、8年間チームの会長を務めた。また、テキサス州議会下院議員を3期務め、多くの政治キャンペーンに積極的に参加するなど、テキサス州の政治に長年携わってきた。現在は、アメリカやアジアでのビジネスに関わる個人、企業、スポーツリーグへの数々のコンサルティングやマネジメントサービスを提供。テキサス大学で学士号、修士号を取得。法律を専攻。